



キルクークの国内避難民世帯に対する 食料および日用品の緊急配布プロジェクト 〈最終報告書〉

団体名： インサーン（INSAN・救援と開発のためのイラク人協会）

日本国際ボランティアセンター（JVC）

プロジェクト名： キルクークの国内避難民世帯への食料および日用品の緊急配布

プロジェクト期間： 〈第一回〉 2014年10月15日～2014年12月15日

〈第二回〉 2015年1月1日～2015年2月28日

プロジェクト実施地： イラク、キルクーク県



目次

1. プロジェクト概要.....	3
2. 実施の状況.....	4
3. 調整と協力.....	10
4. 成果とインパクト.....	10
5. 避難民の声.....	11
6. 教訓.....	13
7. 今後の活動に向けて.....	13
8. 付録.....	14

1. プロジェクト概要

本プロジェクトの目的は、キルクークに逃れてきた避難民に対する食料を中心とした緊急支援である。キルクークに滞在するもっとも困窮した家庭を対象とし、そのさし迫ったニーズに応えるため、2014年10月中旬からの第一回配布では食料に加え冬の寒さをしのぐための簡易的な暖房器具などを配布した。2015年1月からの第二回配布では、家族が2か月間持ちこたえられる分の食料を配布した。第一回配布では100家庭、第二回配布では200家庭、計300家庭(2,300-2,400人)に物資を配布した。

本プロジェクトは2014年10月15日に正式に開始された。緊急支援活動の調整と配布地の選定を行い、キルクークでもっとも脆弱かつ困窮している家庭を支援するため、地元自治体や避難民の代表者に連絡を取った。

これに先立ち、インサーン危機対応チームの始動に合わせ、2014年9月1日に支援対象家庭を選ぶための聞き取り調査を開始した。簡易調査法(RAP)に関する研修を受けた調査員が、インサーンの調査フォーマットに従って指定の地域で調査を行い、第一回目は約700世帯、第二回目は約1200家庭が調査の対象となった。

調達した物資はインサーン・コミュニティセンターで受け取り、保管した。配布を円滑にするため、1家庭分ずつ小分けにした。配布は10日間にわたり、支援対象者がインサーン事務所に物資を受け取りに来る形で実施した(ただし、キルクーク市郊外のハッサール町の人々に対しては、同町にて配布を行った)。

キルクークに滞在するもっとも困窮した家庭が配布の対象となり、また、配布がもっとも効率的かつ適切な方法で、平和的に運営、実施されるよう、地元自治体、避難民キャンプの運営責任者、キルクーク各地区の地域委員会などと継続的に調整を行った。



国内避難民委員会およびキャンプ運営責任者との打ち合わせの様子

2. 実施の状況

以下にプロジェクト実施の進捗状況を、計画案に沿って記述する。

活動1: 配布地の選定

緊急配布の対象となる地域は、キルクーク県国内避難民総合委員会、各地域のインサーン地域委員会、イラク政府難民移民省、キルクーク県当局の協力、および各者との調整によって選定された。



インサーンによる困窮家庭の状況に関する現地調査

続いて現地調査により、もっとも困窮した人々が居住している場所のリストを作成した(付録の表1、表2参照)。

活動2: 支援対象者の選定および調査

調査員は、緊急支援の対象となる困窮した家庭を特定するため、各家庭に対し簡易的な困窮度調査を実施した。

調査員は、事前にインサーンによる終日のトレーニングを受け、調査時の対象家庭に対する接し方や困窮度調査フォームの記入方法について学んだ。



調査フォーム記入についての研修

同時に、選定地域の地元住民の中で特に困窮している家庭を特定するため、地元コミュニティとも連絡を取った。地域の有力者やモスク(イスラム教の礼拝所)にプロジェクトを説明し、特に困難な状況にある家庭を特定するための協力を得ることができた。

その後、対象家庭に対する簡易調査を実施するため、調査員を現地に派遣した。第一回調査では10月上旬までに約700世帯、第二回調査では1月上旬までに約1200家庭の聞き取り調査が完了し、配布対象者のデータベースを作成した。



国内避難民家庭をインサースタッフが訪問して調査(第一回配布時)



イラクの国内避難民およびシリアからの難民の状況に関するインサースの現地調査(第二回配布時)

活動3: 支援物資の調達

支援が決定した時点で、最も安い見積額を提示した業者に発注した。イラク・ディナールの続落により、支援決定時に比べて物資の価格が上昇したため、より低価格を求め、購入担当者が様々な業者に問い合わせをした。インサースと JVC が決定した品目と数量に沿って物資を調達したが、価格高騰により配布を取りやめざるを得ないものもあった(ゼリー缶など)。



トラックで食料品および日用品をインサーン・コミュニティセンターに運び入れた

活動4: 支援物資の保管と袋詰め

発注後まもなく、物資がインサーン・コミュニティセンターに届きはじめ、センター長の監督の下で搬入が行われた。業者の倉庫からインサーン・コミュニティセンターへの輸送用にトラックを借り、日雇いの作業員が物資の積み下ろしを担当した。物資はすべて、納期に遅れることなく納品された。



コミュニティセンターで食料品を保管するインサーン職員

配布時の手続きを円滑にするため、物資を各家庭分ごとに袋詰めした。袋詰め用に様々な容量のビニール袋を用意し、一部にはインサーンロゴのスタンプを押した。各食料品はそれぞれビニール袋に入れ、第一回配布では台所用品および衛生用品、第二回配布では栄養食品を、それぞれセットごとに袋に入れた。



食料品の計量と包装

活動5: 支援物資の配布

支援対象者への物資の配布は、第一回を11月17日から、第二回を2月10日から、それぞれ10日間にわたり実施した。

配布は、インサーン・コミュニティセンターのホールにて行った。これにより、治安面で高い安全性が確保され、もっとも効率的な方法での配布が可能となった。混乱を避けるため、支援対象者には事前に個別に電話で連絡を取り、物資を受け取りにセンターに来るべき日時を伝えた。

迅速かつ適切な配布の実施に注意を払い、以下の要領で行った。

- ・ 対象者を5人ずつセンター内に案内
- ・ 事前に指定した必要書類(身分証明書の原本とコピー、公共配給カード)の提示と、配布フォームへの署名を求める
- ・ 支援対象者の誤解を防ぐため、受け取る物資と数量の案内をホワイトボードに書き、食料品および日用品セットの見本を脇に展示



支援対象者の受付と登録

- ・ 品目ごとに配布ポストを設け、対象者が各ポストを回りながら物資を受け取れるように配置。防犯対策として、各配布ポストに一度に陳列する物資の個数を7から10に限定した。



食料品セットの見本と配布ポスト

- ・ 対象者が全配布品目を受け取り、センターを出る準備ができた際、記録として残すために各個人の写真を撮影した。



物資を手にセンターを出る支援対象者

- ・ ハッサール町においては、シリアからの難民対象に配布を実施した。キルクーク市での食料品等の配布と同様の手順で、ハッサール地区役所前に集まった対象者に物資を配布した。
- ・ 物資を受け取りに来られる人がいない家庭に対しては、直接訪問して食料品の配布を行った。



ハッサール町で食料品を受け取るシリアからの難民



困窮家庭を訪問し食料品を配布

キルーク県国内避難民委員会の責任者が配布に立ち合い、同委員会の委員が各配布ポストに立って見守りながら、対象者の身元確認も実施した。県や市の職員、シェイフ(長老)、ムフタール(選出された地域の長)も配布実施期間中にセンターを訪れた。ハッサール地区役所長も当地での配布に立ち会った。

3. 調整と協力

地元自治体の様々な当事者と継続的に連絡を取り、以下の各者との会合を実施した。

- ・ キルクーク県国内避難民委員会
- ・ イラク政府難民移民省
- ・ キルクーク県当局
- ・ ハッサール地区当局

全当事者が、インサーンと JVC がイラクの人々、特に国内避難民および難民を継続的に支援していることを認識した。キルクーク県当局、ハッサール地区当局、キルクーク地区の地域委員会、国内避難民委員会のそれぞれの代表者との調整会議が4回行われた。彼らはインサーンに対し、以前に一度も配布の対象となったことのない地区および困窮家庭に関する重要な情報を提供した。また彼らは、インサーンによるキルクークへの関与が公式なものであることを、同地の有力者たちに示した。

キルクーク県国内避難民総合委員会も困窮家庭の居所に関する情報を提供し、また地域のリーダーとの連絡を調整することで、地元コミュニティとの信頼関係構築に寄与した。彼らは配布にも立ち会った。

インサーンはキルクーク県当局およびハッサール地区当局を訪問し、支援の目的を説明したほか、支援対象者の依存を生まないために避難民や帰還民の雇用機会を創出する必要性を訴えた。

インサーンは事前に、キルクークで活動し緊急支援を実施してきた国際団体、とりわけ国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国際救援開発 (IRD)、国連人道問題調整事務所 (UNOCHA)、マーシー・コー (米国の国際 NGO) と調整を行った。

4. 成果とインパクト

・ 配布の対象者を選定するため、キルクーク県の国内避難民、難民、受け入れコミュニティの困窮家庭を対象にした聞き取り調査を実施した。第一回調査は 2014 年 9 月から 11 月にかけて約 700 家庭、第二回調査は 2015 年 1 月から 2 月にかけて約 1200 家庭を対象とした。聞き取り調査の実施にあたり、地元の有力者、地域のムフタル (選出された長)、シェイフ (長老) と緊密な関係が作られたことで、インサーンとプロジェクト対象との間に信頼関係を構築することができた。

・ 聞き取り調査の過程で、キルクーク市内のみならず、キルクーク市近郊のハッサール町や、現在 2 か所のみ設置されている公的な国内避難民キャンプがある郊外のライラン、ハルウ・バズヤニといった町村にも赴き、困窮している家庭や個人を訪問した。インサーンにとっては、キルクーク市街の避難民の生活状況やニーズについて知る貴重な機会ともなった。

・ 聞き取り調査においては、機械的に質問に答えてもらうだけでなく、ひとりひとりの話を丁寧に聞き、対象者にとっては聞き取り自体がカウンセリングのような機能も果たした。

- ・ 第一回配布では 100 家庭、第二回配布は 200 家庭の、キルクーク県に居住する困窮世帯に食料品等の支援物資を配布した。配布の対象として選定された対象者のほとんどは、非常に困窮した家庭であった。ほとんどが劣悪な環境の一時的なシェルターで暮らし、十分な食料や調理器具、暖房機器がない不安定な環境下に置かれている対象者に、最大 2 か月間、物資を提供することができた。第一回目の配布では、特に冬季の備えとして、食料に加え調理用コンロ、ヒーター、毛布も提供した。
- ・ プロジェクトの実施および事前の地元自治体等との調整を通じ、県、地区役所、各地域の地域委員会との良好な関係が築かれ、強化された。彼らは聞き取り調査の際にインサーンをよく支援し、また配布に立ち会い、実施過程を目の当たりにした。そして彼らは、インサーンの関与の必要性を認識した。

5. 避難民の声

- ・ 配布期間中、インサーンは支援対象者から多くの感謝や評価の言葉を受けた。多くの家族がインサーンの支援に感謝し、過去 4 か月間に行政からいかなる支援も受けていないと強調していた。物資を受け取る際に涙し、「本当にこれらすべての物が無償で配布されるのか」と聞く人もあった。

・ ミーナさんのケース

ミーナ・アフマドさん(31 歳)は 4 児(男:2 人・女:2 人)の母であり、サラハッディーン県アシャーキー市に住んでいた。過激派組織(ISIS)が勢力伸張し、サラハッディーン県で軍事作戦が展開された際、親戚の 20 家族とともに移動し、小学校で暮らすようになった。

(ミーナさん談)「2014 年 6 月 16 日、ISIS が町に到達し、住民からの支援を求め始めました。同日、イラク空軍が ISIS を攻撃し、アシャーキー市の複数の地域を爆撃しました。私たち家族が住んでいた学校も攻撃されました。親戚のうち、私の家族と、一人のいとこ以外、全員が殺されました。その日、私は子どもたちと一緒にいて無事でしたが、意識を失っていました。自分が救急車でアシャーキーからキルクーク総合病院に運ばれたことは覚えています。私と夫、二人の息子は皆けがをしました。親戚全員が殺されたのを見たあの日以来、ヒステリーの発作を起こします。ISIS が私たちの家を焼いたことや、戦闘がまだ続いていることを聞き、キルクークに居続けることを余儀なくされています。私たちはキルクーク市内の貸家に身を寄せていますが、食料や必需品が足りません。もう 2 か月以上ここで生活していますが、インサーン以外に私たちを訪問してこの暮らしぶりを見に来たり、危機的状況を調査したりする団体はありませんでした。私たちは難民移民省キルクーク支部で登録手続きを行いました。支援は受けられませんでした」

夫が負傷し働くことができないため、ミーナさんは仕事を探すことにした。残念ながら、女性が働くことは難しく、一家は近所の人から時折提供してくれる食料で生き延びている。

この家族は、インサーンによる緊急支援物資の配布対象に選定された。お母さん(ミーナさん)は支援物資のヒーターを見るなり、泣きだした。冬の夜には、路上で拾ってきた段ボールを燃やして暖を取っていたと言う。後日、インサーンのチームが彼女を訪ねた際、彼女は配布された食料を

使って私たちに昼食を振る舞いたいと言ってくれた。



ミーナさんと家族

・ ジャスィームさんのケース

ジャスィーム・ムハンマド・ラティーフさん(43歳)は5児(男:4人・女:1人)の父で、サラーハッディーン県ティクリート市に住んでいた。彼は1995年にサラーハッディーン県の看護学校を卒業したが看護師として就職することはできず、食料雑貨店の店員として働いていた。2014年のラマダーン月(6月)にISISがサラーハッディーン県に侵攻し軍事作戦を展開した際、イラク軍が対ISIS攻撃を無差別に行ったため、ジャスィームさん一家と、彼の兄弟2人およびその家族は、ティクリート市からキルクーク市に逃げることにした。避難を決意した日、攻撃は無秩序に行われ、最悪の情勢であった。ジャスィームさんが街を離れティクリートの検問所近くに着いたとき、高速道路を走るISISの車両と間違われ、家族の護送車がイラク空軍によって爆撃された。2人の兄弟夫婦と、彼らの子どもたち5人が犠牲になった。ジャスィームさんは自分の目で見たことが信じられず、目撃したその犯罪によるショックが数週間続いた。

(ジャスィームさん談)「このような危機的状況下で、電気や水もなく、窓もドアもない建物に住み、近所の人々の助けを待ちながら生きることが、私たちの運命なのです。私は神が私たちを助けてくださることを信じていました。インサーンが私たちを訪問し、食料と日用品の支援対象になったと告げられた時、それは叶ったのです。もうすぐ冬になるので、インサーンの支援に感謝しています」



ジャスィームさんと家族

6. 教訓

・ 国内避難民を受け入れるキャンプが不足しており、すべての避難民がキャンプに滞在しているわけではないため、避難民に対する聞き取り調査にあたっては困難に直面した。キャンプ外に住む国内避難民の居所を特定し、調査を行うには、地元コミュニティ、特にムフタールと地域委員会との調整および緊密な連絡が最良の方法であることを学んだ。

7. 今後の活動に向けて

地域の有力者および支援対象者との緊密な連絡を通じて、キルクークに住む避難民に特有の、急迫したニーズについて多くを学んだ。

・ 夫に先立たれた女性が世帯主となっている家庭の多さには衝撃を受けた。このようにきわめて困窮している家庭は、特に支援の対象とするべきである。

・ 国内避難民家庭から、「キルクークで仕事を見つけて経済的に自立したい、NGO による食料品や日用品の支援に頼りたくない」という相談を何回も受けた。小規模起業支援や、新しい技術の習得を助ける職業訓練といった所得創出プロジェクトが、国内避難民コミュニティから強く求められている。

・ 地元の有力者たちから、何度も小学校および中学校の状況に関する相談を受けた。学校では、適切な教室、衛生的な水設備、暖房など、基本的な施設が不足しており、子どもたちの出席率に直接的な影響を及ぼしている。多数の避難民の子どもを受け入れている学校に対する支援が、切実に求められている。

また、インサーンは、食料品および日用品の配布によって支援対象者の依存を生むことを懸念している。しかし同時に、多くの世帯に所得創出プロジェクトで活用しうる技術があること、そしてそれが今後の生活再建につながる可能性に注目している。

8. 付録

表1: 第一回配布の配布地および配布日

Location No	Name of location	Name of sub location	Number of families for distribution	Date of distribution - 17 Nov 2014	Date of distribution - 18 Nov 2014	Date of distribution - 19 Nov 2014	Date of distribution - 20 Nov 2014	Date of distribution - 21 Nov 2014	Date of distribution - 22 Nov 2014	Date of distribution - 23 Nov 2014	Date of distribution - 24 Nov 2014	Total
1	Kirkuk	Rapareen	28	10	5	3		9	1			28
2	Kirkuk	Al Nasr	22			5	9	6	2			22
3	Kirkuk	Al Askari	13		4	6		3				13
4	Kirkuk	Al Wassity	10					5	3	2		10
5	Kirkuk	1 Athar	5				2	3				5
6	Kirkuk	Panja Ali	12						4	3	5	12
7	Kirkuk	Asra mafqudeen	10							2	8	10
			100	10	9	14	11	26	10	7	13	100

表2: 第二回配布の配布地および配布日

Location No	Name of location	Name of sub location	Number of families for distribution	Date of distribution - 10 Feb 2015	Date of distribution - 11 Feb 2015	Date of distribution - 12 Feb 2015	Date of distribution - 13 Feb 2015	Date of distribution - 14 Feb 2014	Date of distribution - 15 Feb 2015	Date of distribution - 16 Feb 2015	Date of distribution - 17 Feb 2015	Date of distribution - 18 Feb 2015	Total
1	Kirkuk	Rapareen I-II	23	12	6	4	1						23
2	Kirkuk	Al domeez	5	4		1							5
3	Kirkuk	Al Askari	5	2	2	1							5
4	Kirkuk	Al Wassity	10		3	6	1						10
5	Kirkuk	Kalid birgate	10	4	5	1							10
6	Kirkuk	Panja Ali	17		3	4	5	3	2				17
7	Kirkuk	Failaq	8			3			5				8
8	Kirkuk	Gharnata	11						7	4			11
9	Kirkuk	Rahimawa	5					5					5
10	Kirkuk	Nidaa	4						4				4
11	Kirkuk	Shorjah	11				3	5	3				11
12	Kirkuk	Al Nasir	8			4		4					8
13	Kirkuk	Huzairan	3								3		3
14	Kirkuk	Al khidhraa	17					4	7	3	4		17
15	Kirkuk	Al moosala	3							2	1		3
16	Kirkuk	Hasar / kobani	60								35	25	60
			200	22	19	24	10	21	28	9	43	25	200